

日ノ丸産業

工場熱源を重油からLPガスに

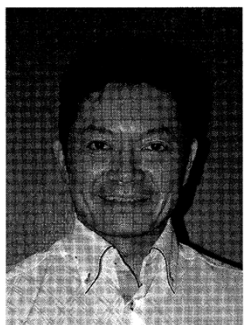
日ノ丸産業（本社・鳥取市、森下明男社長）はメッキ加工・表面処理事業を行うアサヒメッキ（同、木下貴啓社長）の新工場の熱源にLPガスを提案し、契約した。提案に当たっては環境貢献やBCP（事業継続計画）対策などを強く訴求した。同社ではこれを機に、旧工場の熱源ボイラーも重油からLPガスに切り替える計画だ。

アサヒメッキはメッキ加工・表面処理のスペシャリスト。同社では独自に確立したアルマイト処理やステンレス鋼発色処理の量産化技術等の開発とそれらの技術を用いた新たな需要獲得を図るため今年7月、本社工場隣接地に新工場を建設し、5日に竣工式を開いた。金属表面処理事業において「高品質」「短納期」「優れた開発力」

を維持し、環境にも配慮した企業を目指す同社では、「環境活動は社会の要請」「法令遵守は当社の義務」を環境方針に掲げ、環境の法規制を遵守し、グリーン購入並びに省資源・省エネルギーへの取り組みを積極的に進めている。

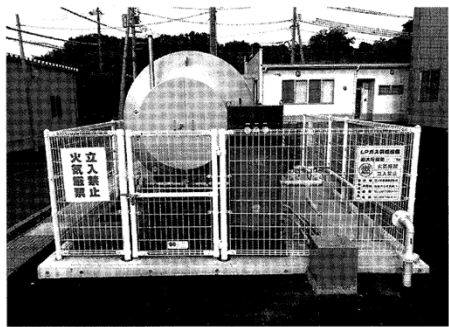
LPガス化でCO₂削減、BCP対策でボイラー採用

日ノ丸産業ではこうしたことを踏まえ、新工場の熱源を重油からLPガスに転換することを提案、



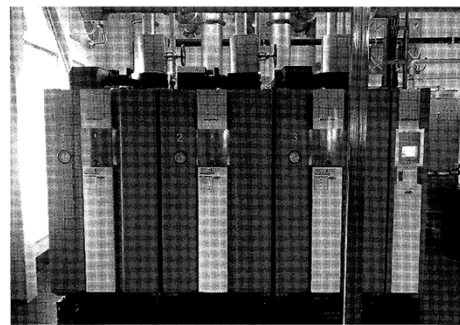
加藤修大鳥取支店副支店長

契約に至った。「気体燃料なので燃焼効率が高く、煤によるボイラー効率の低下も防げる。CO₂排出量も削減でき、CSR（企業の社会的責任）にもつながることなどを訴求した」と加藤修大鳥取支店副支店長は話す。



カグラペーパーテック製の2.9t「バルクコンボ」で供給

また、BCP対策の面からもLPガスボイラーの採用を提案した。「鳥取県でも2000年に鳥取県西部地震、16年には鳥取県中部地震と最大震度6を超える大地



ガスボイラーは三浦工業製の「SQ-2000」を設置した

震が発生した。分散型のLPガスを採用することで、災害等による工場の稼働停止のリスクも抑えられる」と話す。

LPガスはカグラペーパーテック製の2・9t「バルクコンボ」で供給する。▽超小型ペーパーライザーを搭載し、設置面積約3坪と省スペース▽現地での高圧配管溶接工事や耐圧・気密試験が必要無く工期も短縮できる▽貯槽とペーパーライザー一体構造で移設が極めて容易などが特長。

ボイラーは三浦工業製の「SQ-2000」を3基（2t／基）設置した。提案に当たっては▽煤が出ないため掃除の手間が激減する▽A重油と比較して価格が安定

している▽稼働するまでの時間が短い▽ボイラーメンテナンスの負担が減少▽人件費等ランニングコ

ストが削減できるなどを訴求した。

アサヒメッキではこれを機に、

旧工場の熱源ボイラーも重油からLPガスに切り替える計画だ。